

## 貧血に関連する検体検査

演者 : 池田 尚隆 (シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 LS事業本部 LS事業部 アッセイグループ)  
亀岡 日向子 (住友別子病院 臨床検査部)

### 改めて考える赤血球造血に関連する臨床検査

◎池田 尚隆

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 LS事業本部 LS事業部 アッセイグループ

### 血中エリスロポエチン測定の実例と可能性

◎亀岡 日向子

住友別子病院 臨床検査部

貧血とは赤血球数あるいはヘモグロビン値が少ない状態であり、臨床上遭遇する最も多い病態の1つになります。厚生労働省がまとめた「令和元年国民健康・栄養調査報告」によると、ヘモグロビン値が基準を下回っている割合は男性で約10%、女性で約13%に上っており、10人に1人は貧血であることがわかります。また、隠れ貧血と言われる状態の方は、日本人女性では約2割にも上ると報告されております。また、貯蔵鉄欠乏・潜在性鉄欠乏（いわゆる隠れ貧血）の方は、日本人女性では約4割にも上ると報告されております。

この貧血領域ですが、原因として最も多いのが鉄欠乏性貧血であり、貧血全体の7割以上と言われておりますが、重篤な造血器疾患の可能性もあるため、他系統の血球減少を伴う場合は速やかな診断が必要である様に、他病態に関連する割合が圧倒的に高いという特徴もあります。また、腎機能の低下に伴う腎性貧血では、直接的な赤血球/ヘモグロビン合成を原因としない貧血となり、鉄欠乏性貧血、あるいは骨髄疾患に伴う貧血などが除外された慢性腎臓病患者に認められる疾患となります。赤血球の骨髄造血を刺激する物質エリスロポエチン(EPO)に起因し、このEPO産生の方が腎臓であることから、腎臓機能低下により、EPOが減少し赤血球造血が滞ることになります。この腎性貧血の診断や保存期CKD患者様においてEPO測定診断はメカニズム的に有用とされております。またEPOは赤血球増多症の鑑別診断や骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定においても診療報酬算定の適用されております。

そこで、本セミナーでは、広く利用されている血液学的検査以外の項目にも目を向け、各種関連バイオマーカーであるEPO、ビタミンB12、葉酸、更には鉄代謝系項目も加え、改めてこれらの臨床検査を考える機会とさせて頂き、同時に、新販売したEPO測定試薬(ケミルミEPO/Atellica Solution)の実例をご紹介します、本項目の可能性をご紹介します。